

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
日本語Ⅱ Japanese II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(留学生必修 日本人不可 週2回 科目である。2回とも出席すること。)	特になし。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし。				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
飯塚 敏夫 IIZUKA TOSHIO		講義棟1階 講師室	水・木の9時から15時(授業時間を除く)	授業中に指示します
授業の概要				
N5程度の日本語力を持つ受講生を対象として、基礎的な日本語を話す・聞く・読む・書くの4つの技能を身につける。				
授業の目標				
1. 新しい言葉を覚える。 2. 文型の練習をする。 3. 会話の練習をする。 4. 確認問題を解く、の作業を通じて、 基礎的な日本語を話す・聞く・読む・書くことができるようにする。				
授業の方法				
講義、講読、会話、問題演習などにより、日本語能力の向上を図る。 特に聞く・話す能力の向上に重点を置く。 復習テストも毎週行う。				
学習の成果(学習成果)				
1. 基礎的な日本語力を身につける。 2. 日本語による授業を一定程度要点を述べることができる。 3. 日本語を一定程度聞き、話すことができ、 実社会で役立つ日本語コミュニケーション能力を身につける。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。実力チェックテスト(筆記)。実力チェックテスト(口述)。			
第2回目	これまでの総復習。			
第3回目	「〇〇んです」「〇〇んですが、」	復習小テスト。漢字練習。		
第4回目	「〇〇んです」「〇〇んですが、」	復習小テスト。漢字練習。		
第5回目	「〇〇が〇〇ます」「〇〇しか〇〇ません」	復習小テスト。漢字練習。		
第6回目	「〇〇ながら〇〇」「〇〇し〇〇し、」	復習小テスト。漢字練習。		

第7回目	「〇〇ています」「〇〇てしまいました」	復習小テスト。漢字練習。
第8回目	「〇〇に〇〇があります」「〇〇は〇〇にあります」	復習小テスト。漢字練習。
第9回目	中間総復習	
第10回目	「〇〇しよう」「〇〇ようと思います」	復習小テスト。漢字練習。
第11回目	「〇〇ほうがいいでしょう」「〇〇かもしれません」	復習小テスト。漢字練習。
第12回目	「〇〇という意味です」「〇〇と書いてあります」	復習小テスト。漢字練習。
第13回目	「〇〇とおりに」「〇〇あとで」	復習小テスト。漢字練習。
第14回目	「〇〇ば〇〇ます」「〇〇なければ〇〇ます」	復習小テスト。漢字練習。
第15回目	「〇〇ように〇〇ます」「〇〇ように〇〇てください」	復習小テスト。漢字練習。

事前・事後学習	事前：今までに使用したテキストをもう一度復習しておく。 事後：学習した範囲を復習する。
---------	--

成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	毎回予習をし、積極的に授業に参加している。 会話練習の場面では積極的に発話している。
レポート		
調査報告書		
小テスト	30%	前週の授業内容をよく理解、習得し、テスト問題に正確に答えている。
試験	40%	16週目に実施。話す・聞く・読む・書くの各技能をバランスよく習得し、試験問題に正確に答えている。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書
教室で指示する。

履修上の留意点・ルール
日本語を習得しようという情熱をもって授業に臨むこと。遅刻、私語は禁止。飲食物の持ち込み不可。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
日本語Ⅱ Japanese II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(留学生必修 日本人不可 週2回科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
竹上瑞穂	特になし	特になし 学生からの依頼があった際に実施		授業中に指示します
授業の概要				
テキスト「新・中級から上級への日本語」を使用し、日本語を話す・聞く・読む・書くの4つの技能を身につける。特に本授業ではテキストを通じ、内容について思考し、自身の意見や体験を会話することで技能の向上を目指す。				
授業の目標				
1. 新出語彙の習得。 2. 文型の練習をする。 3. 会話の練習をする。 4. 練習問題を解く。 これらの取り組みを授業で行い、基礎的な日本語を話す・聞く・読む・書くことができるようにする。 特に、題材を通して自身の考えを日本語で伝えること。他者の考えを聞き、理解することができるようにする。				
授業の方法				
テキストを題材に講義を行い、テキストの読解、会話演習、問題演習などにより、日本語能力の向上を図る。特に聞く・話す能力の会話力向上に重点を置き、媒体を通して自身の考えを日本語で主張できることを目指す。				
学習の成果 (学習成果)				
1. 基礎的な日本語力を身につける。 2. 日本語による授業を一定程度要点を述べるができる。 3. 日本語を一定程度聞き、話すことができ、実社会で役立つ日本語コミュニケーション能力を身につける。 4. 自身の考えを日本語で他者に伝達することができる能力を身につける。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業ガイダンス			
第2回目	ユニット1 自己紹介と本当の自分 (1) 読む前に：話し合う			
第3回目	ユニット1 自己紹介と本当の自分 (2) 読んでみよう1：読解			
第4回目	ユニット1 自己紹介と本当の自分 (3) 読んでみよう2：内容確認			
第5回目	ユニット1 自己紹介と本当の自分 (4) 読んだあとで1：語彙・話し合う			
第6回目	ユニット1 自己紹介と本当の自分 (5) 読んだあとで2：読解・話し合う			
第7回目	ユニット1 自己紹介と本当の自分 (6) 重要表現：文法			
第8回目	ユニット1 自己紹介と本当の自分 (7) 文法・語彙練習1			
第9回目	ユニット1 自己紹介と本当の自分 (8) 文法・語彙練習2			
第10回目	ユニット1 自己紹介と本当の自分 (9) 小テスト			
第11回目	ユニット2 若者の自己評価 (1) 読む前に：話し合う			
第12回目	ユニット2 若者の自己評価 (2) 読んでみよう1：読解			

第13回目	ユニット2 若者の自己評価	(3) 読んでみよう2：内容確認
第14回目	ユニット2 若者の自己評価	(4) 読んだあとで1：語彙・話し合う
第15回目	ユニット2 若者の自己評価	(5) 読んだあとで2：読解・話し合う
第16回目	ユニット2 若者の自己評価	(6) 重要表現：文法
第17回目	ユニット2 若者の自己評価	(7) 文法・語彙練習1
第18回目	ユニット2 若者の自己評価	(8) 文法・語彙練習2
第19回目	ユニット2 若者の自己評価	(9) 小テスト
第20回目	ユニット3 ジェンダーを考える	(1) 読む前に：話し合う
第21回目	ユニット3 ジェンダーを考える	(2) 読んでみよう1：読解
第22回目	ユニット3 ジェンダーを考える	(3) 読んでみよう2：内容確認
第23回目	ユニット3 ジェンダーを考える	(4) 読んだあとで1：語彙・話し合う
第24回目	ユニット3 ジェンダーを考える	(5) 読んだあとで2：読解・話し合う
第25回目	ユニット3 ジェンダーを考える	(6) 重要表現：文法
第26回目	ユニット3 ジェンダーを考える	(7) 文法・語彙練習1
第27回目	ユニット3 ジェンダーを考える	(8) 文法・語彙練習2
第28回目	ユニット3 ジェンダーを考える	(9) 小テスト
第29回目	まとめと復習(1) ユニット1 ユニット2	
第30回目	まとめと復習(2) ユニット2 ユニット3	
事前・事後学習	事前：配布した次回の授業で使用するテキストプリントを使用し、内容について把握する予習を行う。 事後：学習した授業内容・範囲について復習を行う。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	予習を欠かさず、授業に積極的に参加している。 授業にて指名された際、あるいは自発的に設問に対して答えることができる。 会話の場面では積極的に参加している。
レポート		
調査報告書		
小テスト	30%	授業の進捗状況に応じて、小テストもしくは同等の宿題を課す。 小テスト範囲の授業内容について理解し、試験問題(宿題の設問)に正確に解答している。
試験	40%	16週目に実施。 試験問題に正確に解答している。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「新・中級から上級への日本語」ジャパンタイムズ、2012(改訂版) 参考図書：適宜授業内で説明		
履修上の留意点・ルール		
授業内容やテキストは履修生の能力や進捗状況に応じて適宜変更を行う。 配布されるテキストプリントに事前に目を通し、内容把握・予習を行い授業に臨むこと。 授業開始時間から30分以降の入室は欠席として処理する。30分以内であれば原則遅刻(出席同等)として処理する。 欠席日数が授業日数の1/3を超過した場合、期末試験の受験資格を失い成績は不可となる。		